

3 顧客のために

医療におけるさまざまな業務を支援するシステムを開発・提案しています

音声入力で電子薬歴を作成できる「ENIFvoice SP+A」と「ENIFvoice Core」、医薬品の自動発注ができる「ENIF本部」、物販を支援するPOSレジ「Core-POS」、医療材料を分割販売する「ENIFme」などをご紹介します。

「ENIFvoice SP+A」と「ENIFvoice Core」が作業効率を改善します

音声入力によって薬歴と服薬指導の質の向上に寄与しています

薬剤師には、薬の調剤のほかに、服薬指導と薬歴の作成という重要な業務があります。薬歴とは、患者さまの体調の経過や服薬指導の内容、服薬による副作用の有無などを記録したもので、この記録が次回の適切な服薬指導につながります。薬歴の作成に時間がかかると、服薬指導に費やせる時間が短くなり、そのぶん薬歴に記載する情報も少なくなります。

わたしたちはこの悪循環を防ぐために、服薬指導をしながら薬歴の作成を進められるようなシステムの開発を模索してきました。そして2009年6月に音声認識による薬歴作成支援システム「ENIFvoice (エニフボイス)」をリリースしました。マイクに向かって話すと音声が入力されるので、すばやく正確に薬歴を記録することができます。

翌年5月には後継機種「ENIFvoice SP (エスピー)」を、2017年には電子薬歴を一体化した「ENIFvoice SP+A (プラスエー)」をリリースしました。増加している薬剤師の訪問業務に対応するためにも、薬歴や音声認識辞書のデータをクラウド化しています。いつもと違うパソコンや他の店舗で作業するときも、レベルアップした状態の音声認識を使用できます。クラウド化によって、各薬剤師や各店舗だけでなく、チェーン店全体を支援できるようになりました。

「ENIFvoice SP+A」を導入したチェーン店のデータによると、1秒間に音声入力した文字数は平均で6.5文字に達します。これはキーボード入力の3倍です。記載される情報の量が増えて、より具体的かつ詳細に書かれるようになりました。

「ENIFvoice」シリーズは、全国の調剤薬局と52の薬学系大学(教材として)で、2018年12月末時点で1万338台が導入されています。

レセコンと一体化した「ENIFvoice Core」を新発売しました

2018年には「ENIFvoice SP+A」を搭載したレセプトコンピュータ「ENIFvoice Core (コア)」を新発売し、11月末までに196軒に導入されています。電子薬歴とレセコンを音声認識で操作できるので、効率よく作業することができます。さらにクラウド型なので、同じ法人のチェーン店であればどの

店舗でも瞬時に薬歴情報を閲覧することができます。患者さまは、出張先や旅行先でも、かかりつけの調剤薬局のときと同じように質の高い服薬指導を受けられます。いまのところ個人情報の管理の問題もあり、ほかの法人や医療機関との間での薬歴情報の共有は認められていませんが、患者さまの利便性を考えると、徐々に共有が認められていくことが予想されます。情報共有のインフラとして医療業界全体を支援していきます。

「ENIFvoice Core」が普及したときのメリット

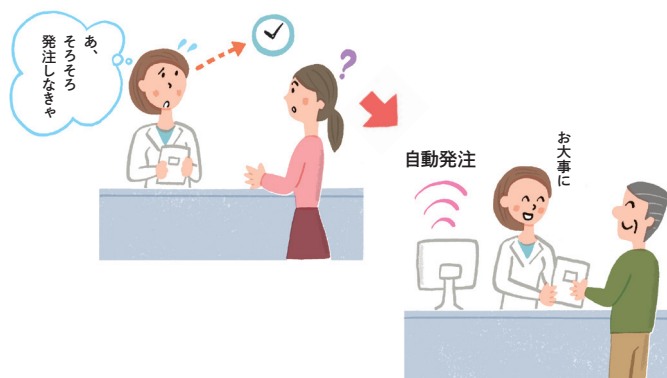


「ENIF本部」の自動発注機能が頻回配送を減らして薬剤師の業務を改善します

「ENIF本部」(2013年リリース)は、調剤薬局チェーンの本部が売上や在庫を一元管理できるクラウド型本部システムです。2018年に医薬品を自動発注する機能を付加しました。過去の処方データをもとに自動的に発注されるので、薬剤師は発注する手間を省けます。また、処方予測によってまとまった量を発注するので、結果として頻回配送が減り、薬が届くたびに行っている検品、入庫、棚入れの回数も減らせます。

作業の効率が上がるため、そのぶん薬歴作成や服薬指導に時間を費やすことができます。薬剤師からは「発注し忘れを気にせずにすむようになったので、患者さまへの対応を優先できるようになった」という声が届いています。2018年11月末時点で(株)ファーマみらいの317店で利用されており、納品が週1回に減った店が32%、週2回に減った店が26%と、目に見えて効果が現われています。欠品が起こることが心配されましたが、適正な在庫量を持つことによってむしろ減少しました。

自動発注の導入による業務改善



POSレジの「Core-POS」で調剤薬局の物販を支援しています

地域医療の充実が求められるなかで、調剤薬局と薬剤師は、「かかりつけ薬剤師・薬局」および「健康サポート薬局」になることを期待されています。「健康サポート薬局」の役割のひとつに、OTC医薬品や健康食品の販売があります。その際、レジをレセプトコンピュータと連動させて調剤の会計も同時にできないと、業務がきわめて煩雑になってしまいます。この課題を解決するのが、レセコン連動型POSレジの「Core-POS(コアポス)」です。

OTC医薬品をスムーズに販売できるように、OTC医薬品の添付文書を印刷する機能もあります。要指導医薬品と第一類医薬品の販売時には警告メッセージが表示されます。「ENIF本部」との連動も可能です。日ごとの締め作業をすると、データが本社に自動的に送信されるので、本社で物販データと調剤データを一元的に管理することができます。キャッシュドロー（現金用引き出し）の上にタブレット端末を載せたコンパクト設計なので、設置しやすいのもメリットです。2018年9月からグループの調剤薬局に導入しています。

「ENIFme」と「エニフナース」を通じて、多職種間の連携を手助けしています

「ENIFme」によって医療材料を1個口から購入できます

「かかりつけ薬剤師・薬局」の要件のひとつに、「患者さまのご自宅に向いて医薬品や医療材料を提供すること」がありますが、これまで医療材料(点滴用チューブや創傷被覆

材、注射器など)は大きな包装での流通が一般的で、医療機関では保管場所のスペースの問題もあり、多種類の医療材料を常時揃えておくことは困難でした。「ENIFme(エニフミー)」(2012年リリース)に登録すれば、「ENIF」で医療材料のバーコードを読み取るだけで、医療材料を1包装単位の1個口からでも簡単に購入できます。「ENIFme」を導入している施設は2018年11月末時点で1万2,448軒です。

音声入力によって訪問看護師の業務をサポートします

訪問看護師のみなさまが報告書や記録書を作成する負担を少しでも軽減できればとの思いから、モバイル端末で音声入力を使って簡単に訪問看護記録を作成できる「エニフナース」を開発し、2016年4月にリリースしました。

「訪問看護記録」というアプリを使うと、いつでも、どこでも、音声入力で簡単に訪問看護記録を作成できます。訪問看護ステーションに戻ってから手書きのメモを見ながらパソコンで入力するの比べると、大幅な時間の短縮になり、記録の量と質も向上します。2018年からは「アルバム」機能を追加しました。患者さまの薬の写真などを撮影して、スタッフ間で共有できるので、「朝の会議の時間短縮につながっている」という評価をいただいています。

静岡県看護協会の訪問看護ステーションに導入されているほか、着実に導入先は増えています。

在宅医療に携わる多職種のみなさまをつないでいます

在宅医の協力のもとに医療材料についての研修会も全国で実施しています。薬剤師だけでなく、医師や訪問看護師、ケアマネージャーが参加するようになり、在宅医療に携わる多職種の方たちの交流の場にもなっています。「ENIFme」は、開発当初から単なる医療材料分割販売システムではなく、多職種連携のプラットフォームをめざしていました。MSは訪問看護ステーションへ積極的に訪問し、「エニフナース」を提案しています。MSが各医療拠点の特徴をほかの拠点に伝えれば、拠点同士が連携しやすくなります。これからも多職種の方々をつなげてまいります。

「健康サポート薬局」をめざす薬剤師のために研修を実施しています

調剤薬局で働く薬剤師や管理栄養士の知識向上とスキルアップをサポートするため、わたしたちは2015年2月に一般社団法人薬局共創未来人財育成機構を設立しました。

地域に密着した「健康サポート薬局」になる要件のひとつに「所定の研修を修了した薬剤師が常駐する」があります。当機構が行う「健康サポート薬局」の研修プログラムは、厚労省が指定する第三者機関日本薬学会から適合と判定されました。「技能習得型研修(集合研修)」を8時間、「知識習得型研修(eラーニング)」を22時間修了すると研修修了証が発行されます。集合研修は2018年12月末までに全国各地で約55回行い、これまでに1,009人に修了証を発行しています。